

研修名	依存症関連問題専門研修第1回 「ネット依存と家族支援～CRAFTの活用～」
講師	社会医療法人あいざと会藍里病院 副院長 吉田 精次 氏
開催日時	令和3年9月2日（木）18：00～20：00
開催方法	オンライン（Webex Meetings）
申込者数	61名 （内訳：医師、保健師、心理士、精神保健福祉士、スクールカウンセラーなど）
研修の 内容等	<p>依存症関連問題に携わる方を対象に、知識や支援手法に関して学ぶ場を提供することによって、支援者の意識やモチベーションの向上を図り、依存症に関して相談しやすい地域づくりを目指すことを目的に、研修会をオンラインで開催した。</p> <p>人類の進化の歴史と脳の仕組みに関する知識に始まり、デジタルデバイスの出現による影響について講話をいただき、ネット依存症者を抱える家族を支援するための手法について学ぶ機会となった。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"><li>・乳幼児期からの脳の発達に大きく影響する事は、大人とりわけ支援職は皆が危機感を持ち、あらゆる場面で市民への啓発に取り組みなければと思いました。</li><li>・ネット依存、スマホ依存の生徒が年々増えてきている中で、今回専門的な知識を少し得ることができ、生徒・保護者の悩みに対応しやすくなったと思います。また、書籍のご紹介もいただき、さらに学んでいきたいと思いましたし、学校でも共有したいと思いました。</li><li>・思春期の脳機能について、大脳辺縁系と前頭前野の違いについて大変参考になりました。</li><li>・「ネットとゲームの問題は大人の問題」「快適、便利、速い、安いを根本から見直すとき」という言葉の重みを感じました。</li><li>・他の依存物と同様の感覚で支援をしていると、難しく感じるのが、断が現実的にできないということ（学校でもネットが必須になってきている為）、子供というところから、治療へのモチベーションがないことがあります。</li></ul> <p>そのため、先生のおっしゃる、親が対応を変えてみて、子供の変化を見るという方向性に共感しました。</p>